

内蒙古自治区における牧畜地区業の現状と今後の対策

于 鉄 夫

(中国内蒙古畜牧局)

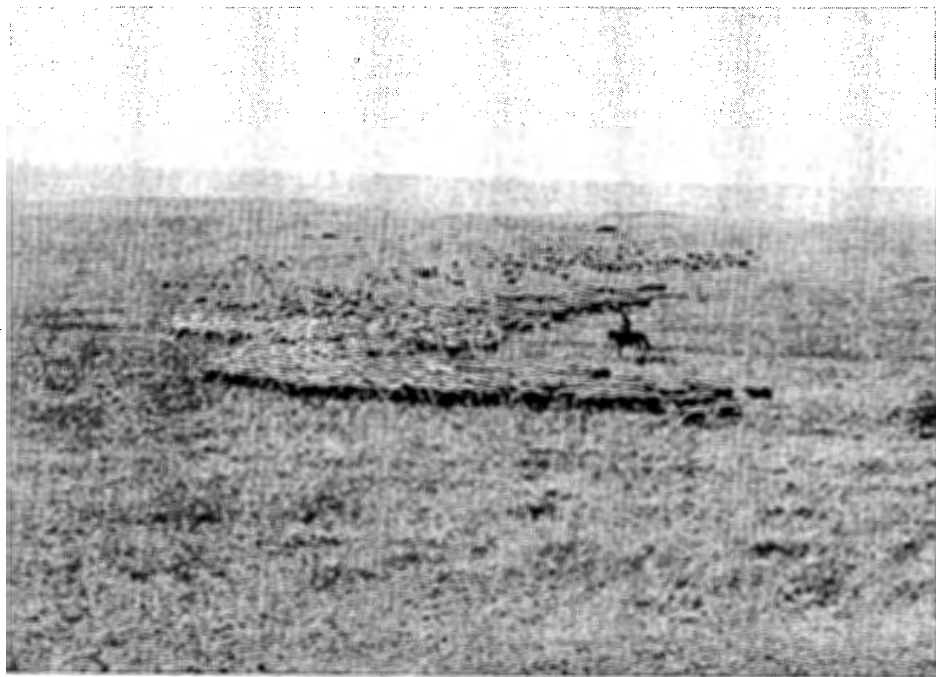
内蒙古自治区は牧畜業を主とするわが国の重要な畜産基地である。自治区の総面積は 118.3 万平方キロで、全国土総面積の 8 分の 1 余りを占めている。このうち、草原面積が 86.7 万平方キロで、およそ全国の草原面積の 4 分の 1 を占めている。総人口は 2093.9 万人であるが、このうち蒙古族が 307.3 万人で、自治区総人口の 14.7% を占めている。自治区管内には 9 盟、3 市と 100 県レベルの自治体、1534 の郷レベルの自治体がある。

以下では、内蒙古自治区の牧畜業の現状、問題点および対策について論述する。

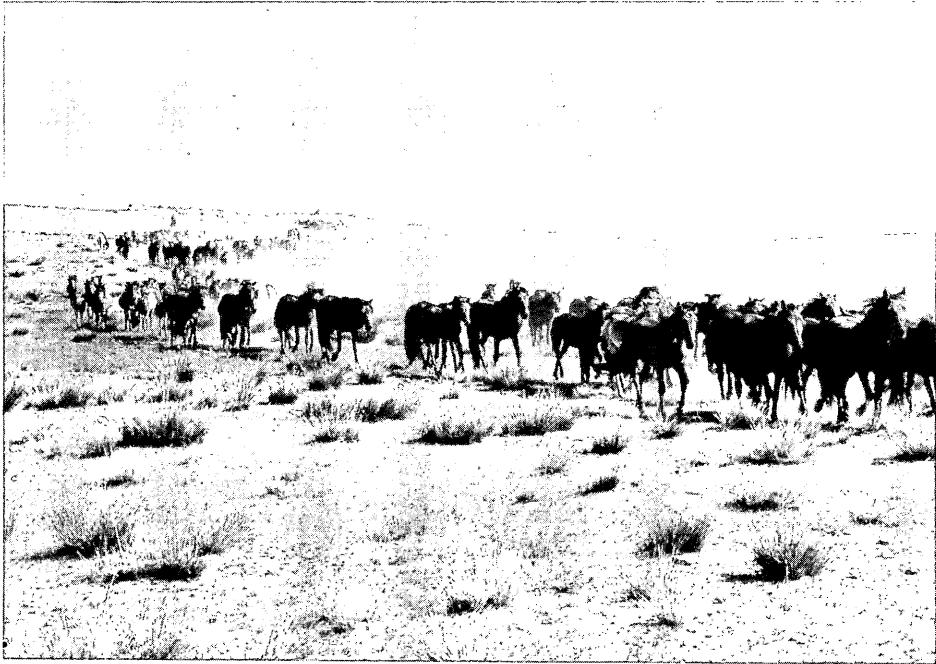
1. 牧畜業資源の概況

内蒙古自治区では面積が広く、地形の類型として、山地、丘陵、高原、平原、盆地、火山、熔岩台地及び砂漠がある。これらが様々の家畜の生存、繁殖の条件となっている。

内蒙古草原の類型については、東から西にかけて、潜水湿草地、草原（乾燥原）、砂漠ステップ及び砂漠の四つがある。植物資源が豊かで、種子植物には約 113 科、655 属、2370 種余りがある。中に飼料用価値の高い植物は約 900 種余りがある。優勢種などは 217 種があり、禾本科の牧草が首位を占め、次は豆科、その他は菊科と藜科などである。



羊の放牧（内蒙古）



疾走する馬の群れ（内蒙古）



駱駝の放牧（内蒙古）

内蒙古の家畜、家禽の資源は豊かである。現在畜産品種が47種で、中に原産品種が24種、改良新品種が17種、外国輸入の優良品種が6種ある。蒙古羊、蒙古馬、三河牛、三河馬、内蒙古白毛山羊、双峰駝、辺鶏及び河套大耳豚などは原産品種の代表である。内蒙古細毛羊、科尔沁（カルシン）細毛羊、内蒙古半細毛羊、草原紅牛及び烏藍哈達（ウランハダ）豚などは改良新品種の代表である。また、卡巴金馬、短角牛、西門塔尔（シンメンタール）牛、茨盖羊及び卡拉倉尔（カラクル）羊などは馴化された輸入優良品種である。

内蒙古自治区にはまた、光エネルギー、熱エネルギー、風エネルギーなどの豊かな資源をもっている。これらの資源は内蒙古における牧畜業の発展の基礎となっている。しかし、内蒙古自治体は欧亜大陸中東部の乾燥、ないし半乾燥地域に位置し、また他にも不利な自然要素を伴

っている。その中で、乾燥が牧畜業生産の第一の制約要素となっている。次に、「白災」、
「黒災」の頻発が牧畜業生産に大きな損害を与えている。

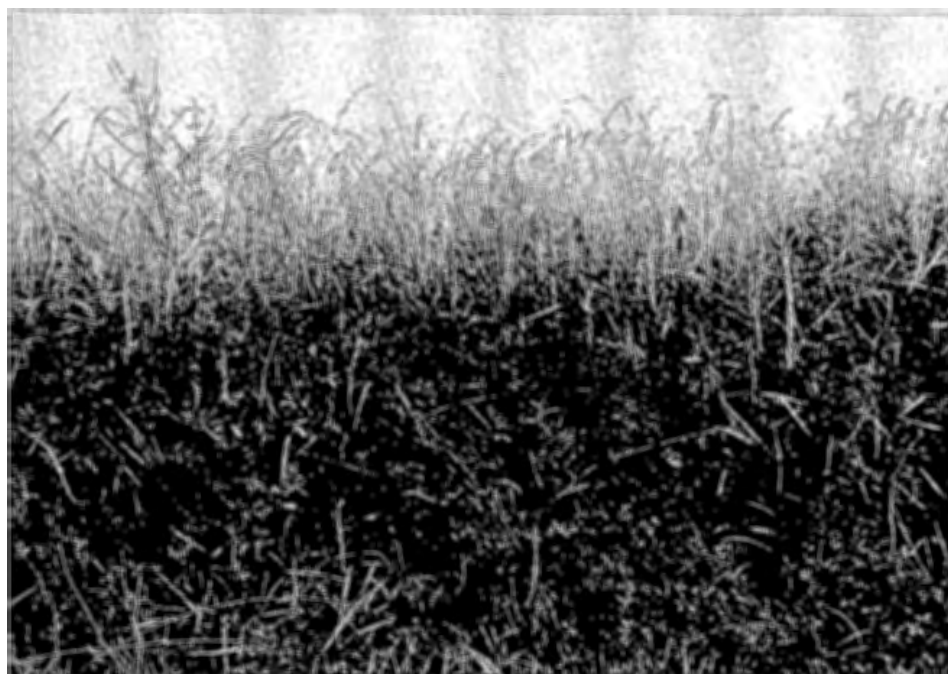
2. 牧畜業の特質

天然の草地資源を利用し、放牧を種とする牧畜業が内蒙古の基本的な特色である。その生産の特徴として、次のような点があげられる。

1) 畜産の分布には明かに地域性がある。湛水湿草地では牛、馬の生産がより進んでおり、草原（乾草原）と砂漠ステップでは綿羊生産が主となっている。また、砂漠では駱駝や山羊生産が主となっている。

2) 生産には明かな季節性がある。家畜の生産、淘汰、牧畜飼料の貯蔵、草地の計画的な使用などが、季節と密接に関わって行われている。

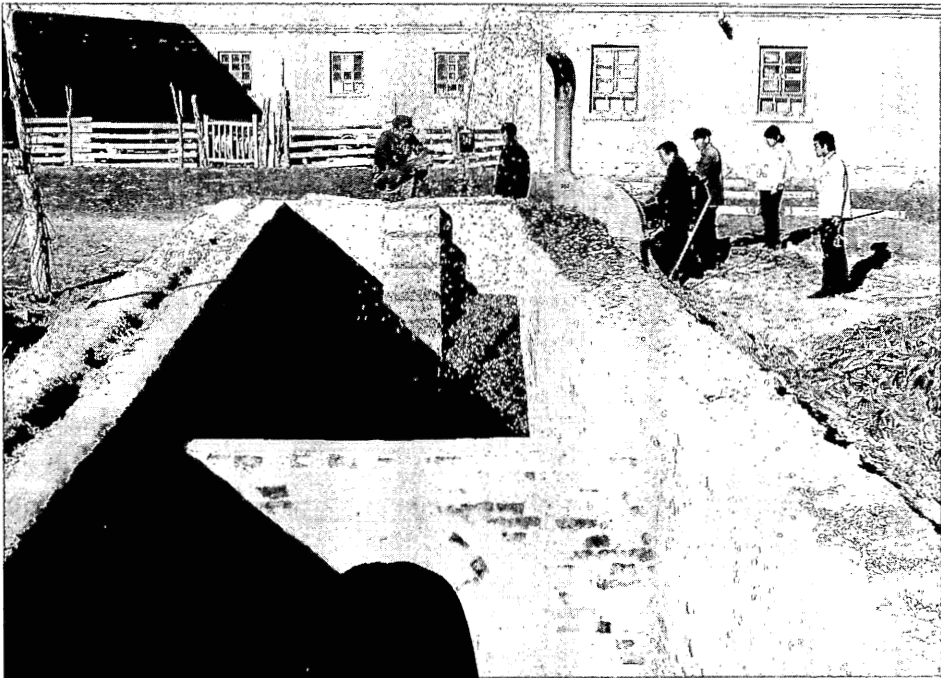
3) 放牧地の区分けには明かに季節性がある。



改良草地（内蒙古）



草地の刈取り（内蒙古）



サイレージの切りこみ（内蒙古）

すなわち季節放牧である。草地の使用は季節によって輪牧の方式をとっている。すなわち、春、夏、秋、冬の4季節の牧区に分けて輪牧されている。また、天然の採草草地は通年的に利用されている。

内蒙古の牧畜業の特質は、自然資源を有効に利用している合理的な側面と、また同時に自然に依存している側面とがある。

3. 牧畜業の現状

1) 家畜の数量と質は大きく高まってきた。1988年では、大小家畜の出荷量が3627.4万頭(羽)で、10年前より9.3%増加した。また、優良改良品種の家畜が1598.8万頭(羽)となり、10年前より58%増加した。牧畜業生産の条件はかなり改善されてきた。

2) 放牧地面積は257.4万公頃(1公頃=100畝)で、人口播種による草地面積は1408万公頃で、航空機播種による草地面積は45.6万公頃である。また、改良草地の退化面積は132万公頃である。放牧地区では、だいたい大小家畜の畜舎が保有されている。また、風力発電機普及され始めてきた。

3) 家族経営の生産体制の改善が進められつつあり、安定化しつつある。さらに、適正規模に拡大しつつある。

4) 牧畜業のサービス体系が改善されつつあり、増産技術の応用が一層広がってきた。

5) 畜産物加工場や飼料加工場が多く建設されてきた。現在、内蒙古では毛織、絨毯、皮革、乳製品、卵、食肉などの総合的な加工場を有している。各種の生産量が大きく、質が優良で、国内の評価が高い。飼料及び農産物の加工技術が推進され、応用されつつある。

4. 牧畜業の発展対策

1) 草原を建設し、生産力を高め、飼料の供給量を増加させること。草原保護のため、わが国では既に「草原法」が出され、また内蒙古自治体区では「草原管理条例」が出されている。過剰放牧による草地退化の問題を解決することが根本とされている。また季節による輪換放牧技術の普及や、草地の有償使用体制の確立に重点がおかれている。さらに牧草や飼料の播種、天然草地の改良が提起されている。

2) 牧畜関係の研究を進め、研究成果を推進、普及すること。現在、牧畜業の生産力を高めるために、教育や技術普及が推進されている。研究機関や関係学校などでは、牧畜生産の当面の課題解決に向けて、プロジェクトチームがつけられている。現在、10余りの生産技術が推進され、普及されている。生産現場の技術水準を高めるために、技術者が現場へ就職する優遇政策が検討されている。

3) 商品化率を高め、季節的牧畜業の生産を実施する。今後、一つの地区ないし経営の生産成果を評価するには、家畜の増加率、出荷率及び商品化率を主な根拠とする。牧畜の発展には、数量と品質が両方重視される必要がある。品質の向上を主とし、積極的に家畜の品種を改良し、個体商品化率を高める。また、家畜構造を調整し、繁殖畜の比重を増加する。

4) サービス体系を改善する。特に、飼料加工、家畜の改良繁殖、家畜の防疫、生産資材の供給、情報の交換及び市場流通などのサービス体系を改善する。個人、組織及び国有組織の同時発展を推進し、商品生産を発展させる。また、様々の連携を推進し、牧・工・商の経済連合体として発展させる。

要するに、様々の問題に直面している。また、同時に多くの国内外の協力が期待されている。